



女らしい！ 男らしい！…って？

～ジェンダーにとらわれない社会を目指そう～



ねらい

自分自身もっている男女それぞれに対する固定観念に気付き、誰もがジェンダー（社会的・歴史文化的に形成された性差）にとらわれることなく、協力して生活できる社会となるように、よりよい人間関係づくりについて考えます。

◇時間◇ 50分 ◇人数◇ 1グループ4～6人

◇準備物◇ 折り紙（10色以上）、模造紙、ワークシート（グループ数、個人数）

展開

1 子ども（孫など）に服を買うとしたら何色の服を買うか、話し合います。

【やり方】

- ① グループで話し合いながら、折り紙の色（10色以上）を使って、それぞれの色の服を「女の子」「男の子」のどちらに買うか、模造紙に分類します。
- ② どちらにも当てはまる場合は「どちらともいえない」に分類します。

2 展開1について気付いたことや感じたことについても話し合います。（時間に余裕があれば、数人に発表してもらいます。）

- （例）・今は以前ほど、色について男女差はなくなってきているな。
・男の子が赤を着たり女の子が青を着たりしているのも、よく見かけるようになった。

3 ワークシート①について考えます。（※ 時間に応じて、事例数の増減を調整できます。その際、No.3とNo.8は入れるようにします。）

【やり方】

- ① 事例を「あってもよいちがい」と「あってはならないちがい」、それぞれの欄に丸を付けて分類します。
- ② どちらに分けるか判断が難しい事例は「どちらともいえない」とします。
- ③ このワークは正解を見つけるものではなく、自分の考えで判断してよいことを確認しておきます。
- ④ まずは個人で事例进行分类します。
- ⑤ その後で、グループで話し合いながら分類します。
- ⑥ グループごとに、分類した結果を発表します。

- （例）・結婚できる年齢は法律で決まっているから、「あってもよいちがい」かな。
・オリンピック100メートル走の参加標準記録の差は、男女の体力差があるから、「あってもよいちがい」だよ。

（板書例）グループの結果

	あっても よいちが い	あっては ならない ちがい	どちらと もいえない
事例1	2	2	2
事例2	1	4	1
事例3	5	0	1
事例4	0	6	0
事例5	1	3	2

4 グループで話し合ったこと、またグループごとに発表してもらった結果をもとに、「あってもよいちがい」「あってはならないちがい」「どちらともいえない」に分けられた事例のそれぞれに共通している特徴について話し合います。グループ（時間によっては数グループ）ごとに、話し合ったそれぞれの特徴について発表します。

- （例）・「あってもよいちがい」に共通しているのは、男女の体力差に関わることかな。
・「あってはならないちがい」や「どちらともいえない」は、あまり特徴はないな。こうやって考えてみると思いこみで分けてしまっているな。

5 一人一人、ワークシート②に記入して、活動についてのふりかえりをします。



展開1 (折り紙・模造紙は机上に配布しておく。)色は全部で〇色あります。(自分の子ども(孫など)に服を買うとしたら何色の服を買いますか?グループで話し合いながら、模造紙に「女の子」「男の子」「どちらともいえない」に分けてみましょう。(いくつかのグループに発表してもらい、理由を聞きながら進行する。)

展開2 この結果について、気付いたことや感じたことを話し合ってみましょう。(「男の子だから、女の子だから、この色」ということは少なくなっている最近の現状について、各グループの発表や話し合い等から確認する。)

展開3 先ほど話し合ってもらったように、色によって性別を固定的にとらえることが少なくなってきました。今日は、いろいろな場合についてみなさんで考えていきたいと思います。

(ワークシート①を配布する。)事例に対して「あってもよいちがい」「あってはならないちがい」に分けてください。判断が難しい事例については、「どちらともいえない」に丸を付けてください。この活動は正解を見つけるものではありません。自分の考えで判断してください。まずは1人で考えてください。

(少し時間を取ってから)それでは、次にグループで話し合ってみましょう。意見をまとめてみましょう。意見がまとまらない事例に対しては「どちらともいえない」にしてください。最後に、話し合った結果について発表していただきます。事例を読みあげながら進行する役、記録する役、発表する役を決めて、話し合ってください。

(話し合った後)それでは、各グループの発表する役の人、発表してください。(結果を黒板に記録しながら進行する。P15板書例参照。)

展開4 話し合ったこと、また各グループが発表した結果をもとに、「あってもよいちがい」「あってはならないちがい」「どちらともいえない」に分けられた事例のそれぞれに共通している特徴には、どんなことがあるのか話し合ってみてください。

では、グループごとに話し合ったことを発表してください。(特徴を黒板に整理しながら進行する。)

(発表が終わったら)「あってもよいちがい」に分類された事例について、考えられる特徴は「男女の体力差に関することや努力によってはどうしようもならないこと」ですね。それ以外については、「ちがい」はほとんどないといっているのではないのでしょうか。

(※もし、展開3で事例の分類が一箇所に偏ってしまった場合は、その理由について話し合う。また、1つでも違う分類になった事例があれば、それについても話し合う。)

展開5 (ワークシート②を配布する。)ふりかえりをしましょう。今日の全ての活動から、気付いたこと、感じたこと、これからの生活に生かせることはないか、ふり返ってみましょう。まずはワークシート②に個人で記入してみてください。

次に、ワークシートの設問3について、グループで話し合ってみましょう。(時間によって、グループの代表に発表してもらう。)

(まとめとして…)私たちは無意識のうちに女性や男性についてのイメージをもっています。それらは長い歴史の中で、時代や地域、文化や習慣の影響を受けながら徐々に形成されてきたものです。それらの社会的・文化的に形成された男女による違い、性差のことをジェンダーといいます。今日の活動から、女性・男性の役割や特徴に対する偏見は、ジェンダーによるところが大きいということを感じ取っていただけたのではないのでしょうか。

また、世の中には「体の性」と「心の性」の不一致を感じている人たちもいます。女性だから、男性だからという理由で可能性を狭められたり、不利益を受けたりすることがないように、みんなが協力しあい、人権が尊重された社会を築いていきたいですね。

ワークシート①

分ける事例	あってもよい ちがひ	あってはなら ないちがひ	どちらともい えない
No.1 結婚できる年齢は、女性は満16歳、 男性は満18歳である。			
No.2 ランドセルの色は、男の子が 黒、女の子は赤が一般的である。 			
No.3 A高校のマラソン大会の走る距離は、男 子が10km、女子が7kmとなっている。			
No.4 両親は妹には食事の手伝いを言 いつけるが兄には何も言わない。 			
No.5 B中学校の出席番号は、男子が先で、 女子が後となっている。			
No.6 C町の町議会は、ほとんど男性議員で、 女性議員はわずかである。			
No.7 男性は男性用トイレを、 女性は女性用トイレを使う。 			
No.8 オリンピック100m走の参加標準記録は 男子が10.16秒、女子が11.32秒である。			
No.9 Dガソリンスタンドは週に1回レディー スデーがあり、ガソリン2円引きになる。			
No.10 E商事では、お茶出しは 必ず女子社員が行う。 			

このほかにも、ホームページから別の事例をダウンロードできます。

ふりかえりシート

- 1 ワークシート①の分類をとおしてわかったことは、どのようなことですか。
- 2 「女らしく 男らしく」ではなく、「自分らしく」を大切にするにはどうしたらよいですか。
- 3 みんなが「自分らしく」生きることができる社会をつくるには、どのようなことをしたらよいと思いますか。そのために、自分は何ができるか考えてみましょう。

